

成願寺

季報
93

平成24年8月18日
(2012年)

目次

「大日如来の輝き」 大谷哲夫	1
大日如来開眼供養の報告	5
フレデリック・ダグラス・アカデミー坐禪会報告	6
「中野坂上お寺ヨガ」 桐原りさ	7
山内短信	8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成二十四年 孟蘭盆会 説教

大日如来の輝き

大日如来開眼供養導師・新宿区長泰寺住職 大谷哲夫

みなさん、こんにちは。今日はお盆の法要に先立ちまして、大日如来様の開眼供養、俗に「魂入れ」とも申しますが、先ほどその法要をつとめさせていただきました。そこで、少しお時間を頂戴しまして、大日如来様とはいったいどういう仏様であるのかと



前駒澤大学 総長
新宿区長泰寺住職
大谷哲夫老師

いうことをお話し申し上げたいと思います。
まず、私たち仏教徒の絶対的な存在はお釈迦様です。これは、みなさんご存じのとおりで、この方が仏教の開祖様ですね。

可睡齋「秋葉の火まつり(夜祭り)」参拝旅行参加者募集

火防・火の用心に霊験あらたかなことで知られる静岡県袋井市の可睡齋。成願寺の行事として約二十年ぶりに火防大祭へ参列。秋葉三尺坊大権現様とご縁を結び、ご加護をいただきます。大祭大祈禱・御輿渡御・松明道中・火渡りの各行事に参加。可睡齋宿坊泊、夕・朝と精進料理をいただきます。

日程 十二月十五日(土)～十六日(日)

旅程 成願寺朝九時集合出発―御殿場・昼食―可

睡齋到着後諸行事参列・宿坊泊―翌遠州三山油山寺(目の守護)・同尊永寺(厄除け観音)参拝―焼津魚センター―夕五時帰着予定

会費 二万八千円

仏教はもちろんお釈迦様が説かれた教えです。そこで最も重要で他の宗教にないことを申しますと、われわれがその教えを学び行なえば仏様に成れるという教えです。つまり「成仏」です。たとえばキリスト教を信じて、キリストにはなれませんが、でも仏教では、仏様と同じ悟りの世界へ行くことができる。これが仏教の素晴らしいところですね。

仏教は、時代とともに大きく転換してまいりました。一番最初のころの教えは、以前は小乗仏教、現在は上座部・部派仏教と呼ばれております。またインドから中国、朝鮮半島、そして日本へ伝わった教えが大乗仏教、現在は北方仏教とも申します。

部派仏教から北方仏教へと伝わる長い時の流れのなかで、多くの分派が起りました。今日で考えてみましても、同じ仏教でありながらさまざまな考え方があります。われわれは只管打坐と申しますけれども、隣の家では南無妙法蓮華経と唱えるんだと言われる。またその隣の家では南無阿弥陀仏と言う。これは、お釈迦さまの教えを理解するために、さまざまな宗派ができたということです。

仏教には、その発展とともに数限りない仏様が出現し、また仏法守護の仏、菩薩、明王、天などを生

み出してまいりました。

そのような仏教の分裂と、思想文化の多様化と統合化との反覆が繰り返されていく課程の中で、密教では絶対仏ともいうべき、大日如来を出現させます。そして大日如来によってあらゆる仏教の世界観を総合していきます。みなさまは曼荼羅をご存じかと思いますが、あれは仏教の世界観を表したものです。その中心に大日如来がおられる。曼荼羅には、阿修羅やヴィシヌ神、シヴァ神など他国の神々も大日如来の化身として描かれています。

遍く照らす光明

それでは「大日如来」とは、どういう意味を持つのでしょうか。如来というのは仏様のことで、それから「大きな日の仏様」となるわけですが、この極めてインパクトの強い見事な漢訳は、中国でいえば唐の時代、インドのお坊さんで善無畏三蔵という方です。三蔵法師としては、「大般若経」を伝え「般若心経」を訳した玄奘三蔵をみなさんよくご存じと思いますが、善無畏三蔵は八世紀の中頃に中国密教で活躍された方で、中国人の弟子の一行禪師らと「大日経」という経典を古いインドの言葉でありますサンスク

リットから漢訳しています。

「大日如来」は元のサンスクリットでは「ヴァイローチャナ」と言い、「遍く照らすもの」という意を持ち、元来は「太陽」のことであつたといいますが、太陽神が仏教に取り入れられたことがわかります。

ところで太陽は、必ず東の方角から昇つて、暗闇に包まれていた世界を照らしてくれます。いまも外へ出れば皆さんとその光が降りそそいでいる。でも家の中に入ったらどうかと申しますと、奥のほうへ行けば光が届いていないところもある。それに太陽の光は昼間だけのものです。夜はその光を見ることはできません。

でも、大日如来の光明、つまり功德というものは、方角、場所、昼夜の区別がなく、ありとあらゆるところを照らすのです。そこが非常にありがたいんですね。

諸仏、諸菩薩の母

わが国では、奈良の大仏様がそうですが、毘盧遮那仏が^{なごう}大日如来と理解されています。ただし厳密に申しますと、毘盧遮那仏は「華嚴經」において展開した「ほとけ」であり、大日如来は後に「大日經」

で最高神格化した「ほとけ」なのです。

私たちの仏教の最高位はお釈迦さまですが、それに匹敵する「ほとけ」として特に密教では大日如来が崇められています。チベット密教を別にすれば、中国、朝鮮半島、日本とアジア主要地域の密教は、すべてが大日如来を本尊としていたと言つてもいいほどです。

先ほど申しましたが、お釈迦さまから出発した仏教は、大乘仏教に至つて多くの仏・菩薩さまが出現しました。十方如来というように、さながら多神教の様相を深めていく。ある人は東方瑠璃の薬師如来を拝むようになり、またある人は西方極樂浄土阿彌陀如来を信仰する。仏・菩薩の出現は百花繚乱のごとく様々で、私はこちらの、自分はこっちのとわれわれが信仰してまいりますと、やがて分裂が起きてしまう。その分裂を回避したのが、大日如来の出現であり存在でもあつたのです。混乱と対立の要素をはらんでいた諸仏、諸菩薩の「共通の母胎」として、大日如来が結実せしめたともいえるのです。

仏の世界に生かされる私たち

この世の一切のものは、それが人為的なものであ

れ、自然的なものであれ、全てが大日如来の表れであるということです。私たちの眼には様々な現象が映ります。毎日の生活のなかで、いろいろなことが起こります。でも私たちの生きるこの世界は、すべてが仏の世界の現象的事実だということなのです。

私たちは、自分のはからいを大きく超えた仏法のはからいによって生かされている。このような教えに沿ってまいりますと、これは人間一人ひとり、一木一草にいたるまで、なにひとつ無駄なものはない。この世のすべて、ひとつひとつが機能していて、無駄なものなどないということになります。

本日はお盆の法要でございまして、これから御先祖さまの追善供養がなされます。御先祖さまは、一人ひとりに数え切れないぐらいいらして、その命が繋がって、いまこうしてみなさんも私も生きてある大切な命。それが生かされているわけです。

先日、大津でいじめによる自殺の事件が起こりました。幼児の虐待による死も珍しくなくなっています。この仏の世界にあつて大切な命が悲しくも無駄に犠牲になっています。命の大切さ、これをきちんと教えてくれるのが、私たちの仏教なのです。

成願寺の大日様

本日、私が参りましたのは、方丈様より大日如来様の開眼法要と、いま申し上げているお話のご依頼をいただいたからなのですが、その折り「なぜ、大日如来様をお祀りなさるのですか」とお聞きしました。方丈様からは「永平寺開山道元禪師、總持寺開山瑩山禪師、そして成願寺開山川庵宗鼎大和尚をお祀りするお堂の守護は大日如来をおいてはない。これは先代の言葉なんです」とのお応えでありました。

先代の義堯様は、戦後の混乱期に奮闘されて、焼け野原になったこのお寺を復興されました。今日の成願寺の礎を築かれたわけです。その先住様からの大願がいまの方丈様に受け継がれて、大日如来様は本堂の左手にございます「龍鳳閣」（開山堂）の楼上に秘仏として安置される。そして成願寺の山内と皆様をお守りくださる。このような慶事にはなかなかお目にかかれることではございません。この大日如来様によって、檀信徒の皆様へのご加護がより強いものとなり、成願寺がますますご発展するものと確信しております。

本日はご静聴誠にありがとうございました。 合掌

大日如来開眼供養の報告



金剛界大日如来

開眼法語

大日如来
化身百億
人天景仰
法身既に降り
正眼点開し
慧光万古

三界の独尊
普く迷昏を度す
万類恩を承く
瑞祥門に盈つ
遍く光明に在り
乾坤に輝耀す

長泰二十五世 泰心哲夫 九拝



法語をお唱えになる大谷哲夫老師



新しい筆を持って一円相を描く儀式

去る七月十一日（水）、孟蘭盆会法要に先立ち、開山堂加護・大日如来様の開眼供養の法要が厳修されました。導師の新宿区長泰寺住職で前駒澤大学総長の 大谷哲夫老師が上殿されると、随喜の御寺院様檀信徒が見守るなか法語が唱えられ、点眼の儀式がなされると、大日様に香り豊かなお茶や菓子などが厳かに供えられました。大日様のご真言「オンバザラダド バン」が堂内に響き、開眼の慶事を祝いました。

大日様は秋彼岸頃まで本堂に安置され、その後は開山堂楼上にて秘仏となり、参拝する私たちを見守ってくださいます。なおご縁日は毎月二十八日です。ご参拝ください。

フレデリック・ダグラス・アカデミー坐禅会報告



去る七月二十七日（金）、ニューヨークの公立校F・D・アカデミーの生徒七人校長教諭三人が成願寺を訪れ、恒例の坐禅研修を行いました。本年は男子生徒ばかりで、膝を折り背筋を伸ばしてしっかり坐り、立派なものでした。

第二部お茶の時間には、茶道宗偏流倉澤宗幽師範より作法を習い、おかわり所望も続く次第。さらにお点前体験は大好評で、深い印象を刻んだようです。

先日アカデミーのイチダマスオ先生よりメールが寄せられました。紹介します。



大変すばらしい経験となりました。特に、学生たちは坐禅にとっても感動し、以下のような感想を述べていました。

*最初は、少し怖かったが、頭のいいお坊さんはたくさんのを教えてくれましたから、すぐ好きになりました。

*暑いお寺の中で、集中できるかどうか分からなかった。でもちゃんとできて、よかった。

*お坊さんたちは、思ったより大変優しかったのです。坐禅の時、肩を叩かれると思ったので、少し精神準備をしたのです。でも、叩かれなかったのので、よかったと思います。

お茶の時も、学生たちは喜びました。

*やっぱり合気道や柔道と同じような技だと感じました。

*甘い和菓子を最初に食べると知らなかったが、食べた後の苦いお茶はとても美味しかったです。

このような経験はなかなか日本人の中でもできないので、喜びと怖さを同時に感じながら、素晴らしい体験をしたF・D・アカデミーの学生と引率者は、成願寺の皆様に関心を込めて大変感謝しております。また会えるチャンスがあったら、是非もう一回皆さんと一緒に時間を過ごしたいものです。素晴らしい経験、どうもありがとうございました。

中野坂上お寺ヨガ

インストラクター 桐原りさ

「ヨガ」というと奇妙なポーズをとる柔軟体操のように思われがちです。しかし、実はヨガは坐禅のルールでもあり、その本来の目的は散漫な心をコントロールし集中状態をキープすること、つまり「瞑想」です。とはいえ、心を無にしてただひたすらに座することは、実際に坐禅を体験してみるとわかりますが、想像以上に難しいことです。姿勢の歪みが常習化した多くの現代人にとってはなおのことでしょう。

そこで心のコントロールを議論する以前に、まずは体を整え浄化する必要性に気づき、その実践的方法を発展させたのが「ハタヨガ」でした。これが、体操の一種のように捉えられている今日一般的に「ヨガ」と呼ばれているものの起源です。



この教室では、「ハタヨガ」の技法を利用して体を調整すること、最終的には「瞑想」に適した心身の状態を内側から呼び起こすことを目的としています。まずはクラスの終了後、体も心もなんと

なくスッキリしたと感じて頂ければ嬉しいです。

普段運動の習慣がなく体も硬いから…と、ヨガを敬遠されるかたも多いようです。ご参加頂いている皆さんの多くが同じような心配をされていたかたがたです。ヨガはそのようなかたにこそおすすめです。あまり難しく考えず、肩の力を抜いてご自身の体との対話に集中し、その時間を楽しむだけでいいのです。強張った筋肉をほぐしながら、体を動かすことにより溜めこんだストレスも効果的に発散し、深い呼吸により、緊張をほぐし心身のバランスを取り戻していきましょう。

男女年齢不問。ヨガマットは無料で貸し出します。初心者でも気軽にご参加いただけます。

【場所】 成願寺南書院二階

【日時】 毎週月曜・水曜 午後二時半～四時

第二・四土曜 午前十時～十一時半

午後一時～二時半

【料金】 一回 二千五百円

(五回チケット二万円 ※購入日より二ヶ月有効)

【予約・問い合わせ】 〇八〇・八四七六・四五〇三

nakanoaterayoga@gmail.com

山内短信

◎秋彼岸中日法要 修証義奉読会

九月二十二日(土・秋分の日)

十一時 受け付け始め 十三時 修証義奉読

◎写仏の会 展覧会のお知らせ

「安達原玄 祈り写仏の会」成願寺教室の作品展を開催します。本堂地下へお立ち寄り下さい。

お彼岸中の九月十九日(水)～二十五日(火)

朝十時～夕方四時(最終日は三時まで)

◎被災地ボランティア活動の写真展示の報告



成願寺では、東日本大震災被災地でボランティア活動を続ける宮城県安養寺様と広最寺様の支援をしています。お盆中、長者閣脇に炊き出し活動などの様子を伝える写真が展示されました。

◎秋の一泊坂東観音詣りのお知らせ

日程 十一月八日(木)～九日(金)

行程 成願寺朝七時集合・出発―十三番浅草寺―

十五番長谷寺―十六番水澤寺―伊香保竹下

夢二記念館―伊香保温泉「福一」泊―吹割

の滝―金精峠―中禅寺湖畔昼食―十八番中
禅寺―成願寺夕五時半帰着予定

会費 三万八千円

*遠方より参加の方は成願寺前泊を受付。貸布団代二千五百円ご負担ください。部屋代・朝食代不要。

◎その他の行事予定

成道会一泊坐禅会 十二月一日(土)夕～翌朝

納めの観音(年末の会) 十二月十八日(火)

午後二時よりご祈禱・説教・会食

◎学術研究振興基金「小笹会」へのお問い合わせ

【小笹会趣旨】小笹会は佛教ならびにアジア、アフリカ地誌を中心とする学術研究振興助成と、勉学の志に燃える学徒の生活相談という二大目的を持つ。その対象も佛教徒を中心に、広く内外に門戸を開放する。応募要項、願書をご希望の方は寺務所(FAX 〇三・三三七二・二七七四)まで。

【申込受付】随時

【審査発表】約五十日後

*メールアドレス ogamu@nakanjojouganji.jp
*ホームページアドレス <http://www.nakanjojouganji.jp/>